

令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

特定非営利活動法人三原ダイヤサロン

1 事業の成果

令和3年度は弊NPO法人設立後3年目に入り4事業の基盤固めと拡大発展に注力した。

4事業は ①住民ふれあい交流事業 (産直市、美味しいコーヒなど各種イベント開催)

②オタスケマン事業 (日常生活上のちょっとした困りごとを支援)

③見守り事業 (要支援者を対象にしたミニデイサービス)

④住民向けサービス事業 (住民向け食堂)

元酒屋の空家を借受け改装整備した施設「三原ダイヤサロン」で①②を実施、元郵便局の空家を借受け改装した施設「ダイヤいきいきセンター」で③④を実施している。

コロナ禍のため6ヶ月間の閉鎖が余儀なくなり、サロン来訪者は年間2040人、センター食堂の喫食者は720人と、それぞれ年間目標の半分に止まった。

住民ふれあい交流事業収益は1ヶ月多く営業した前年比20%増となり、この収益増大要因は後述する季節野菜・柑橘の無人市売上の寄与するところが大きい。

オタスケマン事業は前年比20%増となり、コロナ禍による6ヶ月サロン閉鎖の影響は全く受けないどころか年毎に増加傾向にあることは高齢化地域における当該事業の重要性を裏付けているものとする。

見守り事業のミニデイはコロナ禍の中でも休むことなく毎週金曜日午前中3時間営業して利用者は延300人に達し利用者数の目標を達成した。

ミニデイは目標通りの利用者数を確保し、食堂は6ヶ月休業のため喫食目標の半分に止まったが何れの事業についても黒字化の目処がついたことは今後の事業展開を図る上で貴重な成果であった。

ふれあい交流事業として今年6月から始めた季節野菜や柑橘類の無人市はサロン閉鎖中も開店した所、大好評を博し売上は予想を遙かに超える30数万円(法人全体の事業収益の13%超)に達し 住民への利便性提供は狙い通りの成果を生み出した。

また毎月1回午前中2時間のスマホ無料相談会も人気があり時には順番待ちが出ることもあった。無人市もスマホ相談会もサロン訪問の契機作りとして大変有効なイベントになった。

NPO法人の広報手段として令和2年10月に開設したホームページ中に「住民手作り作品紹介コーナー」を立上げ今迄に4名の作品をアップした(水彩画、鉛筆画、織物、竹細工)。

アクセス数は16ヶ月経過時点で約2200回となり少しずつ増加傾向にあることは喜ばしい。

またミニデイの開催イベント(初詣、花見、クリスマスなど)の写真に掲載することによりミニデイ利用中の親の元気な様子を遠隔地の子供などが確認できると大変好評でありホームページの新しい効用を見いだした。

今後のホームページはオタスケマン活動状況やサロン&センターの開催イベント様子を写真だけでなく動画でも紹介することにより参加者の顔と楽しい雰囲気が伝わる様に模様替えして「NPO法人の見える化」の実現に注力したい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (単位：千円)
地域住民のふれあい交流事業	サロンを週5日開放し 各種イベント開催 美味しいコーヒなど 提供し飲み物代徴収	週5日 10:00～ 16:00	ダイヤサロン	延400人	団地住民 1,200人	145
	産直市を月1回開催 住民手作り野菜・果物 ・家庭不要品・ゼンザイ などを販売 無人市を6月から開始	毎月第4 日曜日 10:00～ 11:00 毎日	ダイヤサロン	延100人	団地住民 1,200人	150
地域住民の困りごと支援事業	住民向けオタスケマン活動 ゴミ出し・送迎支援・ 草刈り・庭木剪定他	通年	地域内	延300人	団地住民 1,200人	401
	自治会向けオタスケマン活動 樹木伐採・草刈り・ 排水溝掃除・会計 放送他	通年	地域内	延300人	自治会役員 15人	361
高齢者の見守り事業 ミニデイ	無償借用した元郵便局 跡を改装し、ミニデイ施 設として整備し、週1回3 時間の市委託事業とし てR2年9月から開始 利用者7名 スタッフ5名 管理者3名	コロナ禍 でも無休 毎週金曜 日午前中	いきいき センター	延250人	団地住民 約30人	986
地域住民向けサービス事業 食堂	元郵便局跡を改装した いきいきセンター内に 設置した食堂使い、スタ ッフ4名により毎週金曜 日に昼食30食をR2年9月 から提供開始	コロナ禍 6ヶ月閉 鎖 毎週金曜 日 1時間	いきいき センター	延100人	団地住民 約1,200人	791

(2) その他の事業については 取組予定・実績ともに 無し